

酒田・飽海大豆情報

令和8年6月11日

第2号

酒田農業技術普及課

TEL 22-6521

6月10日以降の播種の対応について

これからは播種量を2～3割増やして！

6月10日を過ぎて播種する場合は、生育量不足を株数で補うために、播種量を増やす必要があります。また、まもなく梅雨入りすることを想定し、明渠の手直しを行うなど排水対策を徹底しましょう！

I ネキリムシ類の被害に注意！

飛来した成虫は広葉雑草などに産卵するため圃場周辺の除草を行いましょう。播種時または本葉2葉期までに薬剤防除を実施しましょう。（ただし、播種前の種子の塗沫処理に、クルーザーMAXXやクルーザーFS30を使用している場合は、適用害虫となっています。）

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
カルホス粉剤	4kg/10a	播種時～ 本葉2葉期	土壌表面散布	2回以内 (イソキサチオンを含む薬剤の総使用回数は2回以内)
ネキリエースK	3kg/10a	播種時～ 本葉2葉期	土壌表面株元処理	

II 中耕培土

中耕培土は、①雑草の抑制、②主茎の不定根発生による根域拡大、③主茎の支持による倒伏防止、④畦間が排水溝となり、停滞水を排除、といった役目があり、実施時期の目安は下記のとおりです。

■1回目の培土(3葉期)⇒6月中旬～下旬

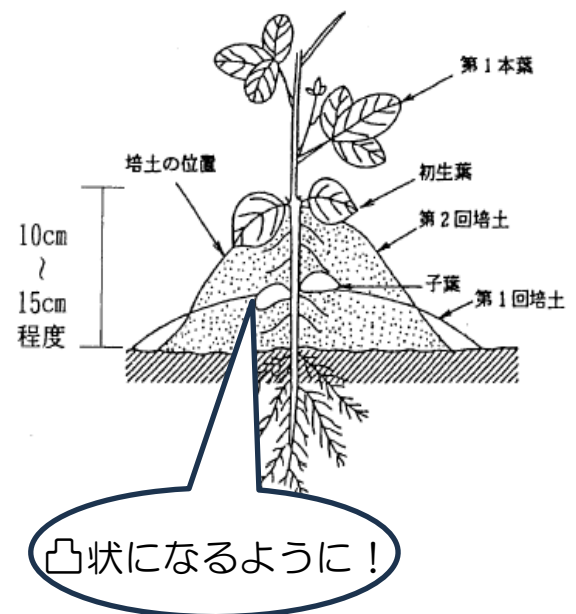
(子葉まで土を寄せるが、株元が凹状になると水が停滞し、立枯性病害の発生原因になるため凸状にする)

■2回目の培土(6～7葉期)⇒7月中旬

(初生葉節から第1本葉の付け根あたりまで土を寄せる。

あまり土を高く寄せすぎると収穫時の汚損粒発生要因となる)

※開花(7/下～8/上頃)1週間前までに終わらしましょう。



これから暑くなります。熱中症に十分注意しましょう！
自身と周囲に気を配り、農作業事故防止に留意してください。

Ⅲ 発生草種に応じた除草剤の使用

大豆畑の難防除雑草
この雑草に注意!



イヌホオズキ



ホソアオゲイトウ



ツククサ

① 広葉雑草が多い圃場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
大豆バサグ ラン液剤(ナ トリウム塩) (1回)	一年生 雑草 (イネ 科を除 く)	100 ～ 150ml	100ℓ	大豆の2葉期～開花前(雑 草の生育初期～6葉期、収 穫45日前まで)	・雑草茎葉散布または全面散布 ・イネ科雑草には効果がない ・イヌホオズキ・ツククサ・シロザには効 果が低い
		300 ～ 500ml	100ℓ	大豆の生育期(雑草の生育 初期～6葉期、収穫45日 前まで)	・畦間雑草茎葉散布
ロックス ◆非選択性 (1回)	一年生 雑草	100 ～ 200g	70～150ℓ	本葉3葉期以降、雑草生育 期(収穫30日前まで)	・雑草茎葉兼土壌散布(畦間・株間処 理)、大豆にかからないよう専用ノズル で散布 ※薬害注意 ・イネ科雑草・ツククサには効果が低い
バスタ液剤 ◆非選択性 (3回以内)		300 ～ 500ml	100～150ℓ	収穫28日前まで(株間処 理:本葉5葉期以降雑草生 育期、畦間処理:雑草生育 期)	・雑草生育期に雑草茎葉散布、た だし、株間処理は大豆本葉5葉期以降 ・大豆にかからないよう専用ノズルで散 布 ※薬害注意

◆非選択性除草剤は大豆の葉にかかると葉の褐変や枯死などの薬害が発生します。広葉雑草に効果のある除草剤の中には、大豆にかからないように畦間・株間に散布するものがあります。散布者が責任を持って確かめましょう。



☆ 散布時に雑草が大きいと残草が多くなります。
残草は、種子が実る前に圃場外へ排出しましょう。

② イネ科雑草が多い圃場用の除草剤(大豆生育期に登録のある主な除草剤)

除草剤名 (使用回数)	適用 雑草名	10a 当り使用量		使用時期	留意点
		薬量	希釈水量		
ワンサイドP 乳剤(1回)	一年生 イネ科 雑草	75～ 100ml	50～100ℓ	雑草生育期(イネ科雑 草の3～5葉期、収穫 60日前まで)	・雑草茎葉散布又は全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・遅効性で、イネ科雑草の枯死まで15～20 日を要する
ポルト フロアブル (2回以内)		200～ 300ml	50～100ℓ	雑草生育期(イネ科雑 草の3～10葉期、収 穫30日前まで)	・雑草茎葉散布または全面散布 ・スズメノカタビラには効果がない ・イネ科雑草の枯死まで7日程度を要する

☆ 水稻など、周辺の作物へ飛散しないよう風向・風速に十分に留意して散布しましょう。